

はながさ
花笠節
(三下げ)

1. 花笠造はながさつくやい 面うむかう顔かくちよてい

梅んみぬにう匂い ヤレ

里さととわ我が仲なか忍しめばんむんぬん

わ うていち
我が落お着ちちゆみ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

2. 手紙ていがみぬ来ちやんてい 御状ぐじょうぬ来ちやんてい

わ うていち
我が落お着ちちゆみ ヤレ

まくらなら い ち
枕まくら並ならびてい 言いち聞ちかさんむん

わ うていち
我が落お着ちちゆみ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

3. 深山みやまぬ鶯うぐいす 初春はついはる待ちかに

あさつゆ すい
朝露あさつゆ 吸すいゆさ ヤレ

う わか ぬはる ん
老ういん若わかちん 野原ぬはるに出んじとてい

あし うり
遊あしぶ嬉うりしゃ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

花笠を造って顔をかくして

梅が匂い立つ中を

忍んで貴方にお会いしなければ

私の心は落ち着きません。

手紙が来ようと便りがあるうと

私の心は落ち着きません。

枕を並べて語り合わなければ

私の心は落ち着きません。

山の奥で鶯が初春を待ちかねて鳴いています

山の木々は朝露を吸って青々としげっています

老いた者も若者もみな野原に出て

楽しむことは本当に嬉しいことです

舞踊「日傘踊り」の一節

四 中五工 四中工 上 四 五七

四 中 工 四 中 五 工 四 中 工 七 五 中 五 七 八 四
 はながみ がさぬ ついくちやんぐ やてい いすい うくは うむじょい うおいは かうぬる かちま くんちち ちよてい てい
 はてい がみ さぬ ついくちやんぐ やてい いすい うくは うむじょい うおいは かうぬる かちま くんちち ちよてい てい
 八七六五工中上四老之合

八 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中 工 中 上 七
 わんが あみぬ うい にい うちゆ うう うう うう いみさ やあ ああ 七
 わんが あみぬ うい にい うちゆ うう うう うう いみさ やあ ああ 七
 八七六五工中上四老之合

四 合 老 上 四 五 四 七 四 七 五 中 五 七 八 四
 さま とうら 四 わが 四 かてい しぬ ういば 中んか 五むさ 七んん 八ぬむ 四ん
 さま とうら 四 わが 四 かてい しぬ ういば 中んか 五むさ 七んん 八ぬむ 四ん
 八七六五工中上四老之合

八 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中 工 中 上 七
 わが ああ うてい いちい ちゆ うう 工み 四中 中よ 上い 七し
 わが ああ うてい いちい ちゆ うう 工み 四中 中よ 上い 七し
 八七六五工中上四老之合

四 五 四 七 四 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中
 いよ いし とう かた あみ てい いよ おい 四い 中い 工し 四中
 いよ いし とう かた あみ てい いよ おい 四い 中い 工し 四中
 八七六五工中上四老之合

工 上 四 五七

1. 花笠造やい 面顔かくちよてい 梅ぬ匂いやレ 里とつ我が仲忍ばんむんぬん
 我が落着ちゆみ ヨイ ヨイトウ カミテイイ
2. 手紙ぬ来んてい 御状ぬ来んてい 我が落着ちゆみやレ 枕並びてい 言ち聞かさむん
 我が落着ちゆみ ヨイ ヨイトウ カミテイイ
3. 深山ぬ霧 初春待ちかに 朝露 吸ゆさヤレ 老いん若ちん 野原に出じとつてい
 遊ぶ嬉しや ヨイ ヨイトウ カミテイイ